

# エイミーグッドマン来日支援連絡会 最終報告書

## 1. 活動の目的

2014年1月18日に開催予定の国際シンポジウム「グローバル化時代に民主シーを再生できるか? :代議制の危機を超えて」に、基調講演者として米国の非営利独立放送局 Democracy Now! (民主シー・ナウ!)の総責任者エイミー・グッドマン氏を招聘するため、グッドマン氏およびスタッフの来日にかかわる諸々の必要を満たすべく、上智大学グローバル・コンサーン研究所の協力を得て実行委員会を設置した。委員会の主体は、Democracy Now! が放送する番組を日本語で紹介している任意団体民主シー・ナウ!ジャパン(2007年4月設立)代表の中野真紀子と、当該シンポジウムを共催する上智大学グローバル・コンサーン研究所所長の中野晃一である。両名が共同代表を務める。

上智大学グローバル・コンサーン研究所は、1981年に上智大学社会正義研究所として設立され、2010年にグローバル化する社会のなかで人間の尊厳と連帯をもとめる指針を明確に打ち出すために、グローバル・コンサーン研究所と改称・改組した。グローバルな視点から貧困や暴力に関する諸問題についての調査研究を行ない、講演会等を通じて学生や社会の意識化を図り、世界の人びとの尊厳と連帯の実現に資することを目的としている。近年では貧困、労働、野宿者、民主主義の再生などを重要なテーマとしているが、設立当初より難民支援問題にも関わりが深い。

「グローバル化時代に民主シーを再生できるか? :代議制の危機を超えて」のなかでも、特にメディアが代議制民主主義の危機において果たす役割は重要な問題である。米国の非営利独立放送局による報道のパイオニアとして大きな成功例をつくったグッドマン氏の話聞くことは、メディアにかかわる者にとっては参考になるところが大きい。ひいては日本におけるジャーナリズムのありかたに一石を投じるものとなることを期待する。

グッドマンを育てた「パシフィカ・ラジオ」は、米国で最初に視聴者が支える公共放送という理念を実現させた放送局であり、設立者は第二次大戦中の良心的兵役拒否者である。反戦を訴える人々の声が収容所に押し込められることが二度とないように、戦争を鼓吹するばかりの商業メディアに対抗する市民のための非営利放送局が必要だという信念が根底にあった。Democracy Now!にもその信念は引き継がれており、さまざまな立場の市民の声をとどけることによってこそメディアは平和に貢献できると考えている。

エイミー・グッドマンの活動は米国のみならず国際的にも高く評価されており、2008年にはもう一つのノーベル賞と呼ばれるスウェーデンのライトライブリフッド賞をジャーナリストとして初めて受賞した。世界各地のライトライブリフッド賞受賞者との交流も生まれ、番組の報道にもそれが反映されている。より良き社会を目指す世界のアクティビズムを取り上げる国際的なメディアに成長したと言えよう。

来日が実現すれば、彼らも日本の現状を取材する機会を得ることになり、この国が直面する問題に

ついでに理解を深めることから、今後の番組における日本の取り上げ方にも大きな影響を与えることになり、ひいては英語圏における日本社会への理解を広げることにも貢献すると期待される。また今後の情報交換や取材協力などの種が蒔かれ、長い目で見たメディアにおける国際協力の推進にもつながるであろう。

## 2. 活動の内容と方法

### 1) 国際シンポジウム

ともにキリスト教精神に建学の理念を根ざす上智大学グローバル・コンサーン研究所(旧社会正義研究所)と国際基督教大学社会科学研究所では、1981年毎年国際的な観点から社会正義を追求するテーマで国際シンポジウムを行っており、2013年度は、1月18日に「グローバル化時代に民主主義を再生できるか? : 代議制の危機を超えて」をテーマに第33回となる国際シンポジウムを共催するが、その基調講演者として、Democracy Now!のエイミー・グッドマン氏が招聘された。グローバル経済と国民国家ベースの代議制民主主義の間に齟齬が広がるこんにち、国際教育の先駆者として、またキリスト教ヒューマニズムに根ざす高等教育機関として、上智大学と国際基督教大学が協働し、日本をはじめとする先進国各国において先鋭化する代議制民主主義の危機を分析し、その上で Encampment movement などグローバル化時代の民主主義再生の可能性を探ることをテーマとするものである。

このシンポジウムの基調講演者としてはエイミー・グッドマン氏と合わせて、『ポスト・民主主義』などの著書で知られる英国の政治学者・社会学者であるコリン・クラウチ教授が招聘されており、他にパネリストとしては北海道大学教授・山口二郎氏らが予定されている。シンポジウムは同時通訳付きの日英両語によって、上智大学四谷キャンパスで行なわれ、無料で一般公開される。ユーストリーム中継などによってさらに広く発信することも検討中である。また、シンポジウムのプロシーディングを書籍化し公刊、さらに広範な社会還元をめざす。なお、エイミー・グッドマン氏の来日にともない、シンポジウムの参加のみならず、市民運動にねざした独立ジャーナリズム組織としての活動を活発に行なうものである。

上智大学における国際基督教大学と共催の国際シンポジウムは、例年延べ100数名の参加者を得て盛況裏に執り行われており、またカトリック新聞やキリスト新聞や一般紙にも取り上げられることが多い。第33回にあたる今年度はユーストリーム中継などによってさらに多くの視聴者を得ることも検討しており、またエイミー・グッドマン氏ら影響力の強い基調講演者・パネリストの参加によって、週刊金曜日や『世界』(岩波書店)などとのタイアップ企画も考えられ、グローバル企業に席卷されるこんにちの民主主義の窮状を打開するための市民社会・地域社会における議論の重要なきっかけとなることが期待される。

上智大学と国際基督教大学の共催国際シンポジウムのうち、今回同様、上智大学側が担当校となって開催した最近では、第27回「グローバル化と先進国における貧困と社会的排除ー野宿者、フリーター、移住労働者の現場からー」がサンパウロ社から、第29回「グローバル化に対抗する運動

ともうひとつの世界の可能性—いかに繋がり、いかに変えるか—」が現代企画室から、第 31 回「教育は社会を再生する力をはぐくむか:グローバル化のなかの大学を考える」が上智大学出版から、それぞれ刊行されている。

同様に今回のエイミー・グッドマン氏らの基調講演などを含む国際シンポジウムでの議論を書籍化して公刊することによって、一回限りのイベントに留まらない長期的な社会的影響をもたらすことができる。

このほか、研究者や識者のみならず、市民運動・社会活動家、宗教関係者らが一堂に会して意見交換、親睦を深めることによって、地域社会のエンパワーメントを創生する活動となることが期待される。

## 2) その他の企画

上智大学のシンポジウムとは別個に来日を機にデモクラシーナウの活動と理念を広めるための活動も行った。具体的には、

### 1) 東京からの番組生放送 3 日間

福島原発事故から 3 年近くになる日本の現状と危機感を伝えると同時に、取材と放送の現場に参加して、米国独立メディアの番組づくりを体験し、学ぶことができる

### 2) 広島の被爆者取材

グッドマンは著書で広島について大きく取り上げており、毎年 8 月 6 日には欠かさず原爆にかかわる報道をしてきたことから、広島での現地取材を特に強く希望している。

### 3) 京都のトーク・イベント

関西でもグッドマンを囲んで独立ジャーナリズムについて語る機会を設けるため、小規模なトークイベントを企画する。関西では市民メディアの活動が東京より盛んといわれており、参加者との交流を重視したい。

### 4) 外国特派員協会でランチョン会見を行い、メディアのあり方についてグッドマンの理念を語る。

### 5) 来日企画の宣伝を兼ねて、クラウドファンディングによる資金調達を行う。これまで非営利メディアに触れることのなかった層にも到達し、支持者を掘り起こすための一助になるであろう。

## 3. 活動の実施経過

・2013 年 10 月 13 日 グッドマン氏の招聘に向けて協力体制を築き、情報を交換するため、多方面の人材が集まり「グッドマン来日支援連絡会」を発足させた。大まかな来日スケジュール、取材対象

の提案や情報提供、各種イベントの広報活動の方法などを討論した。

・11月 クラウドファンディングによる資金調達を行うため諸サイトの調査と比較検討を行い、最終的に Readyfor のサイトを使うことに決定し、来日支援連絡会を主体とした取材放送支援プロジェクトを立ち上げる準備を開始。

・11月下旬 京都のイベント企画を開始

・11月末 グッドマン支援連絡会のウェブサイト“Welcome Amy”を立ち上げた。これは来日プロジェクト全般の紹介とスケジュール、個々の企画の詳細、新規情報の告知、また来日後には成果の掲載、記録のアーカイブなどの役割を担う基本サイトである。

<http://welcomeamy.info/>

・11月6日 外国特派員協会の下見と打ち合わせ。同時通訳者の選定など

・12月1日 フェイスブックにグッドマン来日のページを創設 インタラクティブな情報交換を図る  
<https://www.facebook.com/WelcomeAmy>

・12月6日 クラウドファンディング・プロジェクト「デモクラシー・ナウ！を日本から生放送させよう」をネット公開(2014年1月15日まで 約40日間の企画)

・12月下旬 通訳/アテンド要員の確保

・2014年1月14日 東京 渋谷 NHK インターナショナルで衛星中継のテスト

・1月15日～20日 デモクラシー・ナウ！の一行4人の来日

15日(水) 夕刻までに全員が成田に到着

NHK インターナショナル 21:00-23:00 生放送

16日(木) 夕方まで取材(ピースポート、ビデオニュース・ドットコムなど)

NHK インターナショナル 21:00-23:00 生放送

17日(金)午後 作家の大江健三郎氏へのインタビュー、官邸前の金曜デモ取材

NHK インターナショナル 21:00-23:00 生放送

18日(土) 10:00～18:30 上智大学四谷キャンパスにて 国際シンポジウム

「グローバル化時代にデモクラシーを再生できるか？：代議制の危機を超えて」～基調

講演とパネルディスカッション

夜に菅直人元首相へのインタビュー

19日(日) 6:36 東京発の新幹線で広島へ 10:31 着 被爆者の取材

16:13 広島発の新幹線で京都へ

19:00-21:00 京都教育文化会でトークイベント 京都泊

20日(月) 07:53 京都発新幹線で東京有楽町の外国特派員協会へ

11:00～堤未果氏との対談(岩波書店)

12:00～13:30 ランチョン会見 帰国、

- ・3月 来日記念 DVD の作成
- ・3月 雑誌『世界』4月号にグッドマンのインタビュー掲載
- ・8月6日、広島での取材に基づいた被爆者の体験、および福島原発事故当時の出来事を語る菅直人元首相へのインタビューが米国で放送された。
- ・2014年度内めどに 上智大学での基調講演などを編集し、国際シンポジウム全体内容を公刊。

#### 4. 活動の成果

来日中の企画の詳細は、Welcome Amy(<http://welcomeamy.info/>)のサイトに詳しく記載されているが、主なものを記しておく。

1) 上智大学グローバル・コンサーン研究所、国際基督教大学共催の国際シンポジウム「グローバル化時代にデモクラシーを再生できるか? :代議制の危機を超えて」:

ウェブサイト: <http://www.erp.sophia.ac.jp/Institutes/igc/is33/top.htm>

<プログラム>

2014年1月18日(土曜日)

上智大学四谷キャンパス

10:00 開会

開会の辞

趣旨説明 幡谷則子(上智大学グローバル・コンサーン研究所所員)

10:20-12:30 基調講演

「(社会)民主主義の問題について:ヨーロッパからのひとつの視点」

コリン・クラウチ(ウォーリック大学名誉教授)

「サイレンスト・マジョリティ(物言えぬ多数派)～蜂起と占拠と抵抗、そして希望」

エイミー・グッドマン(デモクラシー・ナウ!ジャーナリスト)

司会: 田村梨花(上智大学グローバル・コンサーン研究所所員)

討論者: 中野晃一(上智大学グローバル・コンサーン研究所所長)

12:30 休憩・昼食

13:30-15:30 パネル・ディスカッション I

「ポスト・デモクラシーとプレ・デモクラシーの奇妙な結合」

山口二郎（北海道大学教授）

「声を取り戻す～社会運動による独立系メディアの確立」

松元ちえ（ジャーナリスト、レイバーネット TV）

「路上の声を聞く」

木村正人（高千穂大学准教授、のじれん）

司会：三浦まり（上智大学グローバル・コンサーン研究所所員）

討論者：コリン・クラウチ、エイミー・グッドマン

15:50-16:00 共同の祈り

北中晶子（国際基督教大学牧師）

ホアン・アイダル（上智大学グローバル・コンサーン研究所副所長）

16:00-17:30 パネル・ディスカッション II

司会：三浦まり

パネリスト：コリン・クラウチ、エイミー・グッドマン、山口二郎、松元ちえ、木村正人

17:30-17:45 閉会の辞

当日の参加者は 144 名という盛況であった。また動画配信を通じて述べ 1300 名を超える視聴者が得られた。会場で集められた参加者の感想からいくつか抜き出すと以下のようなものがあった。

「エイミー・グッドマン氏の講演は感動的だった。生命を賭けた取材活動に独立性の証を見る思いをした」

「エイミー・グッドマンが好きで、彼女の話が聞きたくて参加しました。デモクラシー・ナウ！の司会で観るより、エネルギーで力強いメッセージに感動し、また、東ティモールの話やスノーデンさんの詳細なお話が聴けて良かったです」

「超多忙なエイミー・グッドマン氏の来日を実現していただきありがとうございます」

「大変素晴らしいシンポジウムだった。Amy Goodman の講演は力強く心に響く。直接生の声に触れられて嬉しい」

「Amy Goodman と直接お会いできる／お話が聴ける機会を作ってくださったこと自体にとっても感謝しています！とても勇気づけられる内容でした」「みんなすばらしいですが、エイミーを日本に呼んでくれたことに、とにかく大感謝です。すてきな機会を創り上げてくださったスタッフの皆様、ありがとうございました」

「エイミー・グッドマンのいつもの冷静さとは違う、熱い姿勢を見ることができて胸を打たれました。こうした民主主義への熱い思いによって、長年の「デモクラシー・ナウ！」が支えられているのだなと思い至りました」

「一年ほど前より、「デモクラシー・ナウ！」のニュースを観ていたのですが、エイミーさんの来日の際のイベントに是非参加したいと思い、出席いたしました。エイミーさんを始め、全ての方のご講演が自分にとってとても意義深いものと感じられ、参加ができて非常に良かったと思います。「知ること」によって意識が変わった気がします」

「Amy Goodman 氏がインターネットでは冷静な印象であったのが、実際は熱く語るタイプの方でよかったです」

当日の様子は次のサイトで動画配信された

レイバーネット TV(動画) <http://www.ustream.tv/recorded/42822236> (期限切れの様様)

IWJ チャンネル (動画) <http://iwj.co.jp/wj/open/archives/120242>

## 2) 番組生放送:

3 日間にわたって行われた日本からの番組生放送は、福島原発事故から 3 年近くになる日本の現状と危機感を伝えるため、歴史修正主義と軍国主義に走る安倍政権、事故の収束がおぼつかぬなかでの原子力発電推進、事故により離散避難した双葉町の人々の苦境、反原発の市民運動、環太平洋パートナーシップ (TPP) 参加への反対、沖縄の基地問題、ピースボートによる市民ベースの国際連帯の試みなどの話題を取り上げた。連日の放送につきそったことで、番組の構想から取材、放送までが驚くべき短時間のうちに決断・実行される現場のプロセスに触れることができたことは、非常に学ぶものが多かった。低予算でありながら密度の高い放送を毎日維持している背景には、その場その場で最適なものを選んでいく柔軟さを持った的確な判断力と迅速な意思決定、驚異的な集中力があることがわかった。

岩波書店のご好意で大江健三郎氏へのインタビューが実現した。3 時間を超える充実したインタビューとなった。外国の報道機関に対し、これほどの長時間にわたる対話は稀なことと思われ、貴重な収録映像となるであろう。米国での放送は祝祭日の特別番組として行われる予定であるが、いまのところまだ放送されていない。

## 3) 京都イベント「デモクラシー・ナウ！ LIVE in 京都 国家の自由／私たちの自由」:

日本の独立メディアの代表的存在として IWJ を主催する岩上保身氏をゲストに迎え、映画監督ジャン・ユンカーマン氏の司会で民主主義の危機、グローバリズムや日米関係についてエイミー・グッドマンと語り合う場を設けた。短い告知期間にもかかわらず 150 人を超える参加があり、予想を超える盛り上がりだった。イベント終了後も熱気にあふれる交流が続き、日本でも本格的な独立メディアへの希求は想像以上に強いと気づかされた。このときの模様は IWJ チャンネルで動画配信されている。

<http://iwj.co.jp/info/whatsnew/post/19677>

#### 4) 外国特派員協会ランチョン会見:

89 名の参加があり盛況であった。内訳は、

メディア関係者が 38 名、大使館、大学、企業関係者、スピーカー関係者が 51 名であった

参加メディア:TBS, Kyodo, Dow Jones, Wall Street Journal, The Independent, Science, Scotsman, WCN TV, IWJ, Global Voices, Redio New Zealand National, Kendo World Publication, 講談社、世界、フリーランス(6)

大使館:カナダ、クロアチア、ノルウェイ、南アフリカ

大学関係:早稲田、立教、外大、Hedizinsische Uni (Wien)

後述のように、複数のネットメディアにより動画配信された

#### 5) クラウドファンディング「デモクラシー・ナウ！！を日本から生放送させよう」:

<https://readyfor.jp/projects/WelcomeAmy>

目標金額 300,000 円を上回る 439,000 円の資金が集まり、支援者は 75 人に上った。デモクラシー・ナウ！のファンだが日本語版があることは知らなかったという声もいくつか聞こえ、今後の活動への協力者の獲得にもつながった。

#### 6) メディアによる紹介:

##### ・IWJ チャンネル

エイミー・グッドマン特集(動画と記事 4 本)

<http://iwj.co.jp/wj/open/archives/tag/%E3%82%A8%E3%82%A4%E3%83%9F%E3%83%BC%E3%83%BB%E3%82%B0%E3%83%83%E3%83%89%E3%83%9E%E3%83%B3>

##### ・ビデオニュース・ドット・コム

神保哲生氏によるグッドマンへのインタビュー 動画(英語)

<https://www.youtube.com/watch?v=w11f-7eURW8>



外国特派員協会の会見の様相 動画(英語)

<https://www.youtube.com/watch?v=knqrviDpv1w>

ニュース・コメンタリー :勝っても負けても闘い続けるだけ 動画(日本語)

<https://www.youtube.com/watch?v=scQ7-Pi0jAo>

・アワープラネット TV

「独立系メディアは社会に不可欠」エイミー・グッドマン

<http://www.ourplanet-tv.org/?q=node/1716>

・レイバーネット・ジャパン

写真速報 <http://www.labornet.jp.org/news/2014/0118shasin>

・毎日新聞記事 (2014年01月31日 東京朝刊)

水と緑の地球環境:被災者の声、米へ伝え 民衆の視点持つ、独立系メディア「デモクラシー・ナウ！」「原発事故後」を取材

[http://mainichi.jp/shimen/news/20140131ddm010040033000c.html?inb=ra&utm\\_source=dlvr.it&utm\\_medium=twitter](http://mainichi.jp/shimen/news/20140131ddm010040033000c.html?inb=ra&utm_source=dlvr.it&utm_medium=twitter)

・岩本太郎ブログ

『デモクラシー・ナウ！』エイミー・グッドマンさん、怒涛の来日！

<http://air.ap.teacup.com/taroimo/1285.html>

<https://www.facebook.com/taro.iwamoto/posts/602793463108551>

7) エイミー来日記念 DVD (デモクラシー・ナウ！ ジャパンが制作)

国際シンポジウムにおけるエイミー・グッドマンの基調講演「サイレンスト・マジョリティ」を軸に滞在中の諸活動の記録をまとめたもの。基調講演の内容は、グッドマンが米国の独立メディアの旗手となるに至った成長の経緯、ジャーナリストとしての決定的な体験、メディアの役割についての信念などであり、独立メディアのスピリットを余すところなく伝える資料となる。

8) 国際シンポジウム「グローバル化時代にデモクラシーを再生できるか? :代議制の危機を超えて」の書籍版については、上智大学グローバル・コンサーン研究所が翻訳・編集作業を進めている。現在、テープ起こしと翻訳の全てが終わり、出版社探しを経て、刊行に向けてさらに編集を進めていく。

## 5. 今後の課題

市民運動と連携する独立メディアへの取り組みは、まだ日本では始まったばかりであるが、そんななかアメリカや世界の第一人者とも言えるエイミー・グッドマンが来日を果たしたことの意義は計り知れないものがあった。日本国内にも一般市民からメディア関係者に至るまで少なからぬファンがおり、また外国特派員協会をはじめ在日外国人コミュニティにおける関心にも高いものがあった。上智大学におけるシンポジウムでは、エイミー・グッドマンが国際的に著名な政治学者コリン・クラウチ氏、そして日本の市民社会団体関係者と意見を交わす有意義な場もたれた。日本国内各種メディアでエイミー・グッドマンの活動が大きく紹介されたのも成果であった。今後は、エイミー・グッドマンの訪日が与えたインパクトがさらにどうかたちで日本の独立系メディアや市民運動での取り組みに活かされていくかが問われていると言えるだろう。そのためには今回形成された連携のネットワークをひきつづき育て、国内でもより大きなうねりとしていくことが課題であるとする。

## 6. 添付資料とアーカイブ・サイト

- ・デモクラシー・ナウ！「エイミー来日記念 DVD」

- ・雑誌『世界』2014年4月号 堤未果氏によるインタビュー

- ・「新宗教新聞」2014年1月25日発行 第1050号

「物言えぬ多数派」の声を報道する ～エイミーグッドマン氏が来日、会見

<ウェブサイト>

- ・グッドマン支援連絡会のウェブサイト “Welcome Amy”

<http://welcomeamy.info/>

- ・クラウドファンディング・サイト

<https://readyfor.jp/projects/WelcomeAmy>

- ・上智大学グローバル・コンサーン研究所のウェブサイト

<http://www.erp.sophia.ac.jp/Institutes/igc/is33/top.htm>

- ・デモクラシー・ナウ！の番組サイト

<http://www.democracynow.org/> (英語)

<http://democracynow.jp/> (日本語)